

---

graduation

潤

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

g r a d u a t i o n

### 【Nコード】

N2568BA

### 【作者名】

潤

### 【あらすじ】

友達の少ない竹野 凜は

じきに卒業というある日

豊崎という女子に友達にならないかと話しかけられた。

そこから始まる恋の物語です。

俺は竹野 凜。

中3でじきに卒業である。

あ、名前からよく

勘違いされるが俺は男だ。

まあ俺はクラスでは

あまり目立たない方で友達も少ない。

今日も授業が終わる

帰ろうとしていると呼び止められた。

「ねえ……竹野君」

女子からだ。

確か、名前は豊崎 亜依だったな。

「なんだ？」

「えっと……友達とかいる？」

「まあネット上にならそこそこいるけど」

「ネットじゃなくてリアルの話」

「あんまり、つかいねえな」

「じゃ今から友達になろう」

「今からって受験勉強もあるし……」

「とりあえず今日私の家に来て」

「なんでだよ？」

「……勉強会開きたいの」

「ははーん、賢すぎずバカすぎず」

「ちようどいいのが俺だと思ったからだろ？」

「……うん」

なんだこの豊崎の話す間は？

一旦沈黙してからの返事何か裏でもあるのか？  
でも友達になつて損はないよな？

「わかった、豊崎。お前んちに行く」  
「わぁーありがとう」

――――  
豊崎邸。

…。  
俺は絶句した。

物凄い豪邸だった。

普通のマンションを想像していた。

俺の家がそうであるように。

「はい、あがつて」

「お、お邪魔します」

おそろおそろ豊崎邸にあがる俺。

そして豊崎 亜依の部屋に案内された。

…。

勉強会開きたかったんだよな？

豊崎は…。

なのにそこにはクラスメートの

日笠 未来と佐藤 佳澄がいた。

「あ、騙すみたいなことしてごめんね。竹野君」

「ん、ああ」

「勉強会じゃなくてね、

卒業式の前にあるお別れ会で

3年4組の有志でだしものを

飛び入りでしようと思うの」

「ほうー」

「それでまあ私の友達と竹野君に

来てもらって意見だしあおうと思ってね」

「まあいいけど…」

-----

結局その日3時間の話し合いで

決まったものは………特にない。

だってよ、クラスメートのあいつカッコいいよなあーとか  
でもあいつ性格悪いしーとかいう

いわゆるガールズトークが繰り広げられていた。

なんだよ、ホントに騙されたみたいじゃないか。

「竹野君、今日こそやるよ」

「おう」

また豊崎邸。

今日も日笠、佐藤の2人もいた。

「あー今日はガールズトーク禁止な」

俺は言った。

とうかすでに部屋で待機していた2人は  
ガールズトークをしていたからマジメに

お別れ会でのだしもの考える気があるのかって話。

「なんでよ？」

「アンタに決められなきゃいけないわけ？」

「っーかお別れ会の飛び入りのだしもの

考える方が重要じゃない？」

「あーあれね…私らはっていうか

ノリ気でいてるの亜依だけなんだよなー。

もともと冗談で言い出したことだし…」

「でも、やるっていったならやるうよ」

豊崎が泣きそうな顔して入ってきて言った。

「何いってんの、亜依。」

私ら親友やん。

やるに決まってるじゃない」

「何が親友よ！冗談で言い出したこと？

あのこと話したとき意見でたのに。

なのにノリ気なのは私だけ？

そう思ってるなら帰って！」

そういつてオレンジジュースが入った

コップの中身を日笠と佐藤の顔にかけた。

「ああーわかつたわよ。

ここまでされてここにいる必要ないもんね。

まあせいぜい大好きな竹野君と2人きりで考えれば？

じゃ、もう2度と私、

日笠 未来に話しかけないでもらえる」

「私も…」

先に話したのは日笠で後の私も…は佐藤の返事だ。

というかさつき日笠はなんて言った？

『大好きな竹野君と2人きりで』だって？

どういう意味だ？

それより慰めなきゃいけないような気がする。

でもそれよりも床にこぼれたジュースも気になる。

でもやはり先に豊崎に声をかけよう。

「大丈夫か？」

「うん…。とりあえず床ふいとかないと…」

「俺も手伝うよ」

「ありがと」

いつもの豊崎であろうとしたが

やはり親友と思っていた人物から

あんなこと言われると元気も50%減した感じである。

床にこぼれたジュースをふき

2人きりの状態で話し合いが始まった。

「変なところを見せてごめんね。」  
多分あの子らとはもう修復不能な友情だと思う」  
「そんなもん、諦めるのはなんか行動起こしてからいえよ。」  
「ま、とりあえずだしものを考えよーぜ」  
「うん。あの子らと意見だしあったときは  
オリジナルの歌を歌おうって話だったの」  
「ほうー。なかなかいい案じゃないか」  
「で、歌詞も少し出来てるの…」  
「どんなん？」  
「これ、まだ途中だけど…」  
「ほうー。あ、これをこの言葉にした方がよくない？」  
「あーそうだね」  
そして2人で歌詞を完成させた。  
「ふう。後はこれをクラスで発表して有志集めて歌おう」  
「アカペラでいくの？バンドかピアノはいらないの？」  
「集まった人でそれが出来たらそうしょっか」  
「おう」

---

翌日。

なんとというか俺と豊崎はだいぶ早く学校に来た。  
そしてクラス全員集合。  
顔広いなあ、豊崎は。  
前に出てた俺と豊崎は話始めた。  
「えーとお別れ会で飛び入りでだしものを  
しようと思って歌を作ってきた」  
「それで…有志を募りたいんだけど…  
誰か参加してくれる人いる？」



そして放課後。

約15人が集まった。

「どんな曲やるの？」

「オリジナルの曲」

「俺らは歌わんでいいから後ろでバンドやりたい」  
男子の5人のうちのリーダー格が言った。

「それならうちらはバンドの前で踊りたい」

女子のダンス部の5人が言った。

歌い手として残ったのは

俺と豊崎と日笠と佐藤ともう1人になった。

「はい、じゃピアノ譜渡すから

それをバンド版にして、

ダンス部はとにかく練習」

「先生、こんな感じになりました」

「バンドにバックダンサーか。」

これは面白そうになるな」

-----

練習を重ねお別れ会当日。

在校生からの感謝の言葉や

なんやらといろいろとやってから。

「それじゃ最後は」

3年4組の有志によるオリジナルの歌

『桜』です」

カチカチ。

ドラムのスティックを叩く音がして始まった。

桜

桜 咲き誇れ

ボクの心の中で

桜 咲き誇れ

キミの心の中で

桜 咲き誇れ

みんなの心の中で

覚えてるかい？

ここで

みんなと出会い

そして笑った

泣いた日もあるけど

どれも

みんなとの思い出なんだ

桜 咲き誇れ

ボクの心の中で

桜 咲き誇れ

キミの心の中で

桜 咲き誇れ

みんなの心の中で

忘れられないでしょ？

ここで

誰かに恋して

恋で楽しみ

恋で苦しみ

そんな日が  
忘れられないでしょ？

桜 咲き誇れ

ボクの心の中で

桜 咲き誇れ

キミの心の中で

桜 咲き誇れ

みんなの心の中で

桜 咲いたかな？

ボクの心の中に

桜 咲いたかな？

キミの心の中に

桜 咲いたかな？

みんなの心の中に

パチパチ。

拍手喝采。

そうしてお別れ会は終わった。

—————

お別れ会の数日後。

卒業式がやってきた。

校長先生の話があったりいろいろとあった。

今にも泣きそうな人ばかりだったたので

鼻のすすする音がいっぱいだった。

終了後。

体育館をでると吹奏楽部による歓迎演奏が待っていた。  
そしてそれ以外の生徒で作った花道を通り卒業式終了。

「竹野君……」

「何？豊崎」

「ブレザーの第2ボタンちょうだい……」  
かああ。

それは俺に気があるという意味ですか？

そう思っつて顔を赤くした。

「ああ、いいよ」

ちょうど第2ボタンを渡すところを  
カメラマンに撮られた。

-----

卒業アルバムができたらしく

それを母校まで受け取りに行った。

もちろん彼女の亜依と。

卒業アルバムをみると

お別れ会で歌ってた様子や

卒業式のページにボタンを渡してる写真がのっていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2568ba/>

---

graduation

2012年1月6日16時52分発行